

中小企業景気動向調査

令和7年度第2四半期(2025年7月～9月)

厚木市商工会議所

I. 厚木地区の全体の景気動向

厚木商工会議所では、厚木市内の中小企業のうち各業種（製造業・建設業・運輸業・小売業・飲食業・卸売業・不動産業・サービス業）から選出した840の事業所様を対象に、四半期ごとに厚木市内の景気動向に関する調査を実施しております。

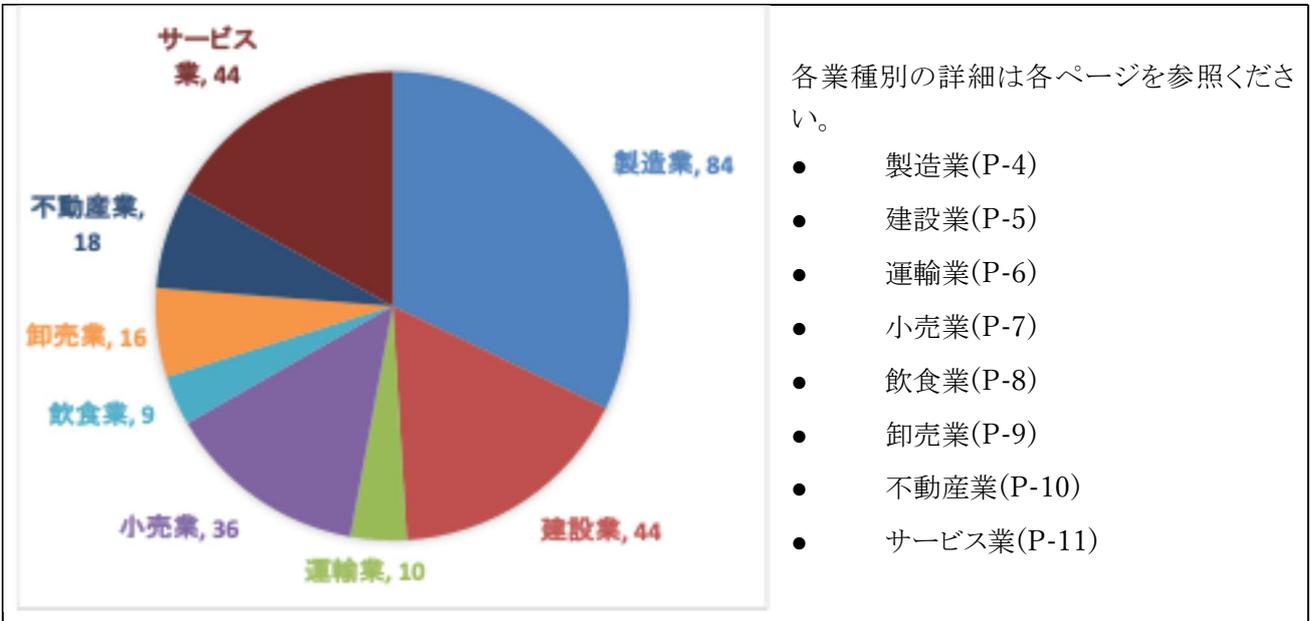
今回の調査は令和7年9月30日付で実施し、ハガキとWebの2種類の形式で回答を受け付けました。合計261件のご回答をいただき、ご多忙の中ご協力いただきました事業所様には心より感謝を申し上げます。

本報告書では、いただいた回答を集計し、業況判断はDI値で、経営上の課題については構成比(%)で表示しています。また、全体と業種ごとに詳細な分析結果を掲載しています。本報告が、今後の経営の参考になりますと幸いです。

1. 調査票の回収内訳

調査対象業種は製造業・建設業・運輸業・小売業・飲食業・卸売業・不動産業・サービス業の8業種。回収企業数の割合を下図に示す。注)各業種の数値は、ハガキ・Webの回収を合計したもの。

2025年度第2四半期・アンケート回収状況(ハガキ+Webの合計)



2. まとめの DI

1). 業種別総合の値

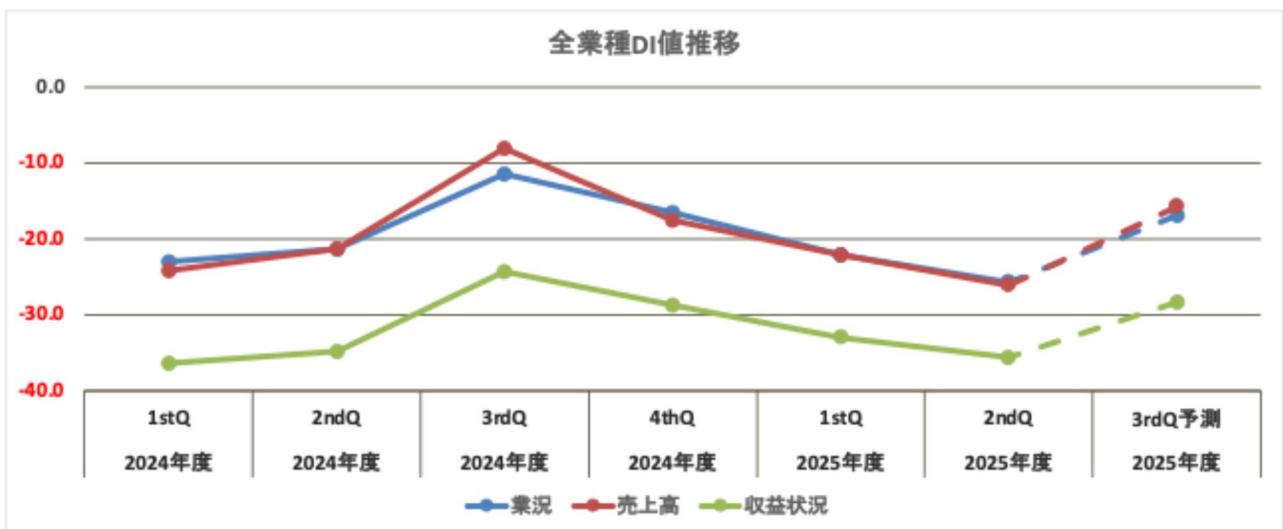
業種	業況DI値		次期業況見込み	
	今四半期	前四半期	今四半期	前四半期
製造業	▲ 27.4	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 18.8
建設業	▲ 2.3	▲ 7.0	0.0	▲ 7.0
運輸業	▲ 10.0	▲ 30.0	0.0	0.0
小売業	▲ 22.2	▲ 10.0	▲ 16.7	▲ 23.3
飲食業	▲ 33.3	▲ 28.6	▲ 11.1	▲ 28.6
卸売業	▲ 18.8	0.0	▲ 18.8	5.9
不動産業	▲ 5.6	▲ 15.0	▲ 5.6	▲ 50.0
サービス業	▲ 18.2	▲ 17.1	▲ 20.5	▲ 11.4
全業種	▲ 25.7	▲ 22.1	▲ 16.9	▲ 20.5

◎第2四半期(7~9月期)における厚木地区の調査対象中小企業経営者の景況感は、業況DI値が▲25.7となり、前期(第4四半期)の▲22.1から全業種平均で3.6ポイント低下した。

業種別にみると、卸売業(▲23.1)、小売業(▲12.2)、製造業(▲6.5)、飲食業(▲4.8)、サービス業(▲1.0)で低下した。一方、改善が見られたのは、運輸業(20.0)、不動産業(9.4)、建設業(4.7)である。

参考までに、日本商工会議所がホームページに公表した LOBO 調査(2025年9月30日付)による全国・全産業の業況DI値は▲18.6で、前期の▲16.8から1.8ポイント低下した。消費マインドはわずかながら上昇したものの、残暑による外出控えの影響が継続していると指摘されている。

2). 次期予測(全業種)の推移



◎次期の予測では、2025 年度第 2 四半期の業況 DI 値(▲25.7)から、2025 年度第 3 四半期は▲16.9 へと、8.8 ポイント改善すると予測されている。

日本商工会議所の LOBO 調査でも、前期の▲15.7 から▲17.3 へと 1.6 ポイント悪化しているが、気温の低下に伴い消費マインドが回復することが期待されている。

注)

2024 年度 1stQ:第 1 四半期、2ndQ:第 2 四半期、3rdQ:第 3 四半期、4thQ:第 4 四半期

2025 年度 1stQ:第 1 四半期、2ndQ:第 2 四半期、3rdQ 予測:第 3 四半期予測をそれぞれ示している。

*DI 値について

DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す数値である。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナス(▲で表示している)の値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。前期比でマイナス数値が小さくなると改善の表れであり、大きくなると下降を意味する。あくまで感覚的なデータで、売上高などの実数値の上昇・下降を示すものではなく、企業経営者の景況観で強気・弱気などの相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

- ただし、「商品仕入価格、原材料仕入価格、燃料油価格」は前期に比べ「イ.上昇」の回答が増えるとグラフは下降し悪化傾向と判断している。
- 「借入金」は前期に比べ「イ.増加」の回答が増えるとグラフは下降し悪化傾向と判断している。
- 「商品在庫状況」は前期に比べ「イ.増加」の回答が増えるとグラフは下降し悪化傾向と判断している。

3. 経営上の問題

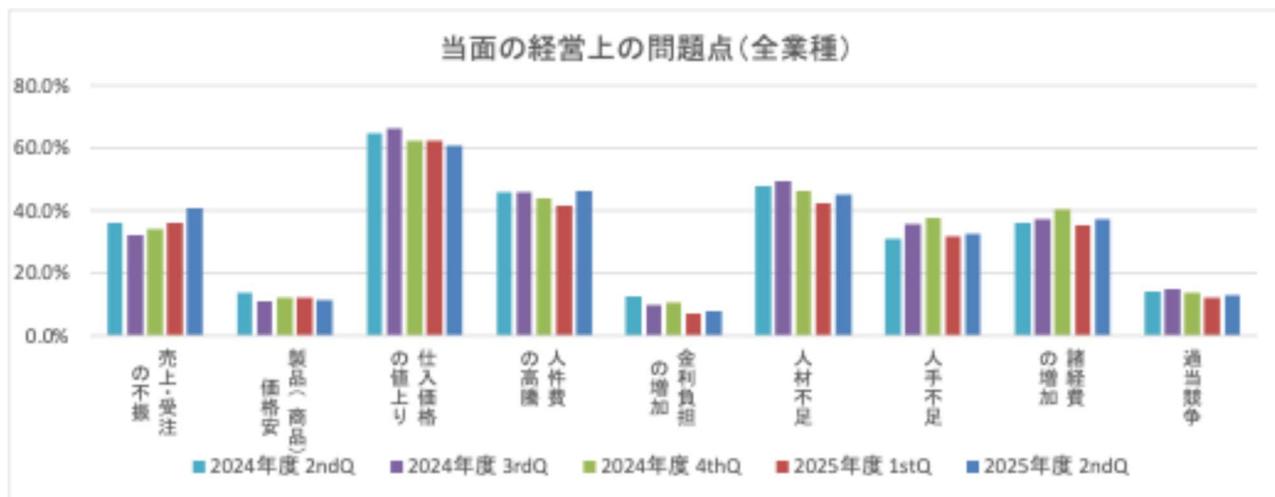
業種	売上・受注の不振	製品・商品の価格安	仕入価格の値上り	人件費の高騰	金利負担の増加	人材不足	人手不足	諸経費の増加	過当競争
製造業	48.8%	10.7%	66.7%	41.7%	4.8%	38.1%	31.0%	29.8%	8.3%
建設業	27.3%	9.1%	63.6%	54.5%	11.4%	68.2%	54.5%	40.9%	18.2%
運輸業	30.0%	20.0%	60.0%	80.0%	0.0%	80.0%	90.0%	70.0%	0.0%
小売業	52.8%	13.9%	66.7%	38.9%	0.0%	38.9%	16.7%	33.3%	22.2%
飲食業	33.3%	11.1%	88.9%	88.9%	11.1%	33.3%	44.4%	55.6%	11.1%
卸売業	37.5%	6.3%	62.5%	25.0%	18.8%	43.8%	37.5%	31.3%	25.0%
不動産業	22.2%	0.0%	50.0%	27.8%	22.2%	33.3%	11.1%	55.6%	16.7%
サービス業	40.9%	15.9%	38.6%	52.3%	6.8%	38.6%	18.2%	34.1%	6.8%
全業種	40.6%	11.1%	60.5%	46.4%	7.7%	44.8%	32.6%	37.2%	13.0%

経営上の問題点を全業種で並べてみると、「仕入価格の値上り」が最も多く挙げられており、2021年度第3四半期以降、16期連続で60%を上回っている。それに「人件費の高騰」「人材不足」「売上・受注の不振」が続く傾向は、これまでと大きく変わりはない。

「仕入価格の値上り」はほぼ全業種で上位に挙げられている。サービス業、不動産業以外の業種で60%以上となっており、その割合の高さが際立っている。

全業種集計グラフ(下図)では、前期は「売上・受注の不振」のみ悪化傾向が見られたが、今期は「人件費の高騰」「金利負担の増加」「人材不足」「人手不足」「諸経費の増加」「過当競争」と多く経営上の問題が悪化傾向に転じている。

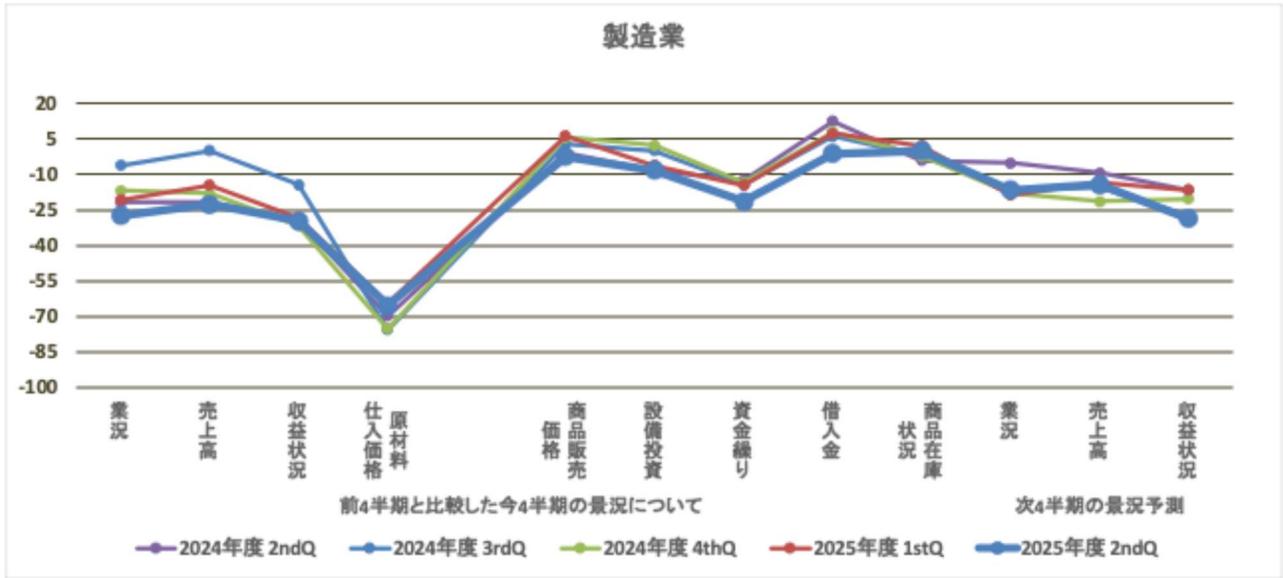
今期の「売上・受注の不振」は特に大きく悪化しており、それが引き金となって多くの経営課題があらためて浮上してきた。今後も「仕入価格の値上り」「人手不足」「人材不足」「人件費の高騰」は続くと思われるため、商品・サービスの付加価値向上やIT/DXの活用など抜本的な対策が必要である。



II. 業種別の動き

次ページ以降に各個別の業種の景気動向及び経営の課題についてコメントします。

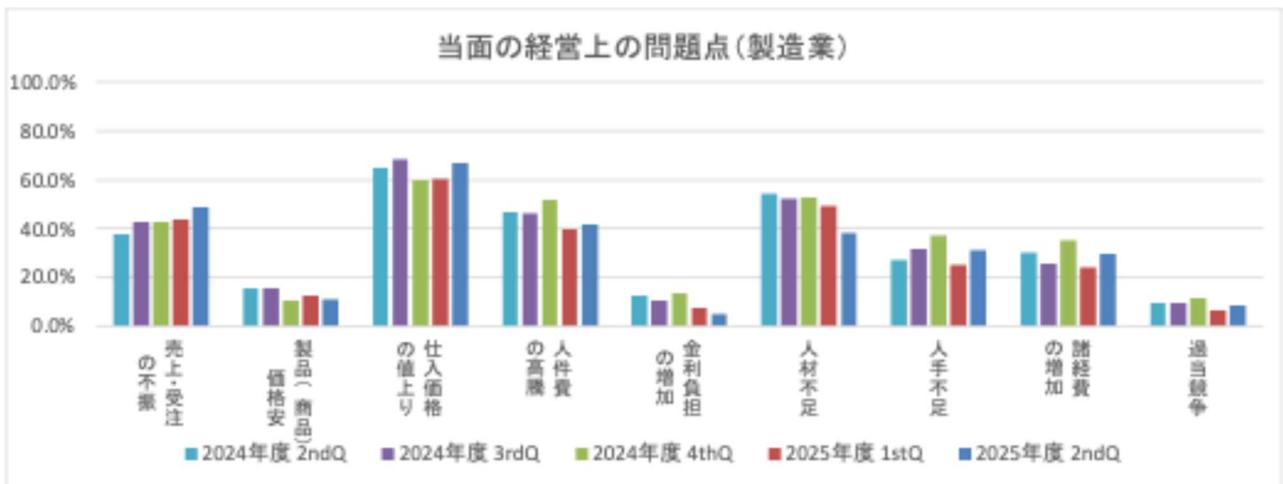
1. 製造業



2025 年度第 2 四半期の製造業における景況感は、前期と比較して総じて悪化した。

「業況」は▲27.4 ポイント(前期▲20.8 ポイント)と 6.6 ポイント低下し、「売上高」は▲22.6 ポイント(同▲14.6 ポイント)と 8 ポイント悪化した。「収益状況」も▲29.8 ポイントと依然厳しく、改善の兆しは見られない。「原材料・仕入価格」は▲65.5 ポイントと高止まりし、コスト圧迫が続いている。「商品販売価格」は▲2.4 ポイントと再びマイナスに転じ、「設備投資」も▲8.3 ポイントと慎重姿勢が強まっている。「借入金」は▲1.2 ポイントとわずかに減少したが、資金面の不安は払拭されていない。

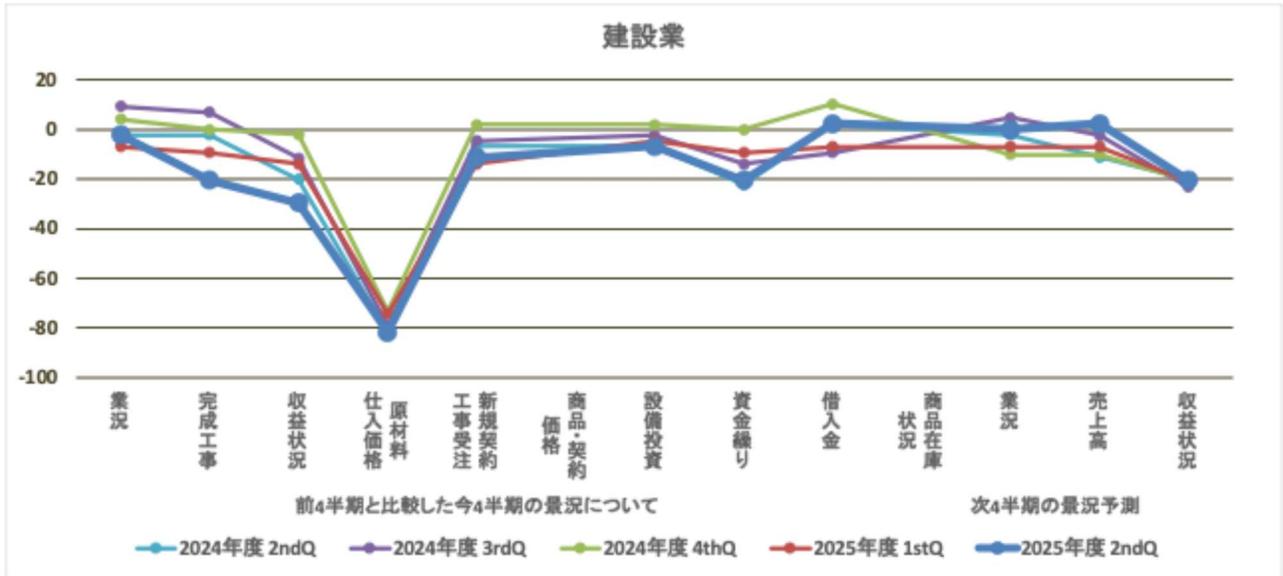
次四半期の予測でも「業況」▲16.7 ポイント、「売上高」▲14.3 ポイント、「収益状況」▲28.6 ポイントと、依然として回復は見通しにくく、需要回復とコスト抑制の両立が課題である。



2025 年度第 2 四半期の製造業における経営上の問題点では、「仕入価格の値上り」が引き続き最も高い割合を占め、コスト上昇圧力が続いている。「売上・受注の不振」は前期より増加し、需要の弱さが再び懸念される状況である。「人件費の高騰」もわずかに上昇し、コスト負担の拡大がみられる。一方で、「人材不足」は減少したが、「人手不足」は増加しており、現場労働力の確保に課題が残る。「諸経費の増加」も上昇に転じ、全体としてコスト関連要因が再び経営を圧迫している。

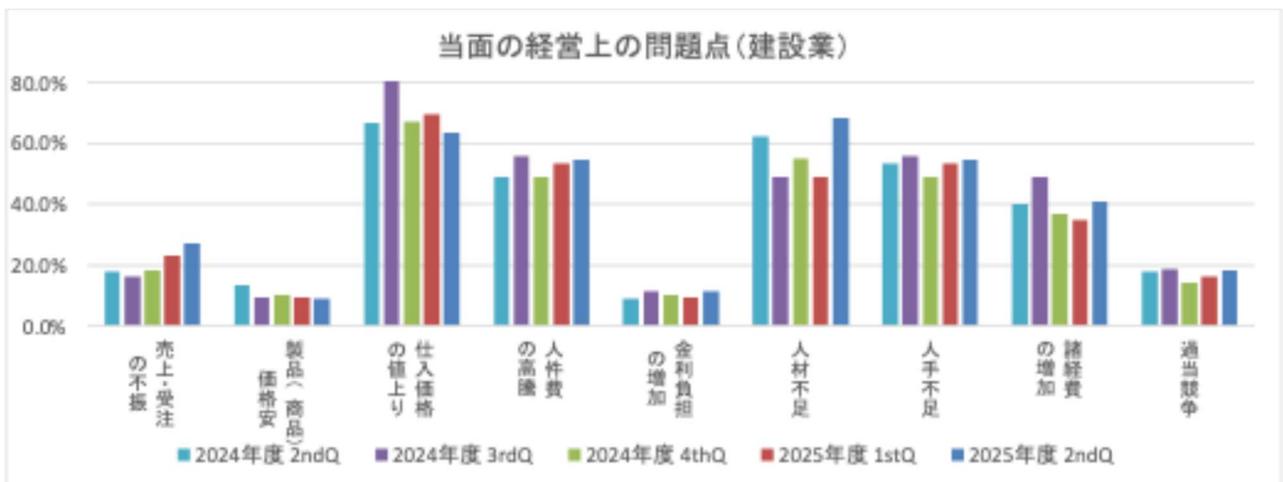
価格転嫁の限界が見える中、稼働平準化と多能工化で人手不足を緩和し、効率化と生産性の向上が一層求められる局面である。

2. 建設業



今四半期の建設業の「業況」はマイナスながら改善した。一方で、「完成工事」と「収益状況」は大幅に悪化し、実績面では減速が続いた。「原材料・仕入価格」が高止まりする一方、「商品・契約価格」は横ばいで、コスト上昇分を十分に転嫁できていない。また、「資金繰り」の悪化や「借入金」の増加からも、運転資金確保の負担増が示されている。需要の鈍化とコスト負担が重なり、業況の改善が収益や工事量の回復につながっていない。

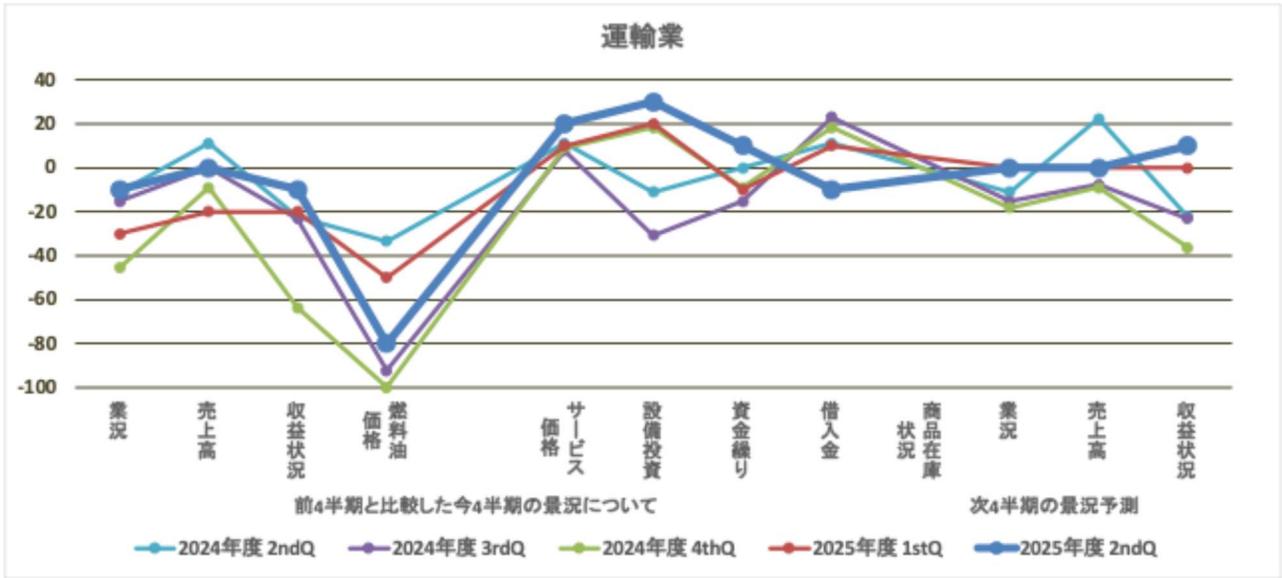
次四半期については、「業況」と「売上高」が改善し、受注回復への期待が示されている。一方で、「収益状況」は依然として低迷し、「原材料・仕入価格」が高止まりしたままであり、価格転嫁が難しいことが課題である。公共工事の下支えはあるものの、利益改善の見通しは立ちにくい状況である。



今四半期の建設業における問題点は、「売上・受注の不振」「人材不足」が前四半期より大幅に悪化した点が特徴である。一方で、「仕入価格の値上り」や「製品(商品)価格安」、「金利負担の増加」などは大きな変動はないが、コスト上昇圧力は依然として続いている。2024年からの推移をみても、「仕入価格の値上り」と「人件費の高騰」は高止まりし、企業体力を圧迫し続けている状況である。

今回特に目立つのは「人材不足」の深刻化であり、現場人員の確保が受注力にも影響している可能性が示されている。また、「売上・受注の不振」は、地域の建設需要の停滞や事業者間の競争激化を示唆する。実際、「過当競争」や「諸経費の増加」もやや増えており、各社が限られた工事案件を奪い合う中で利益確保が難しくなっている状況がみられる。

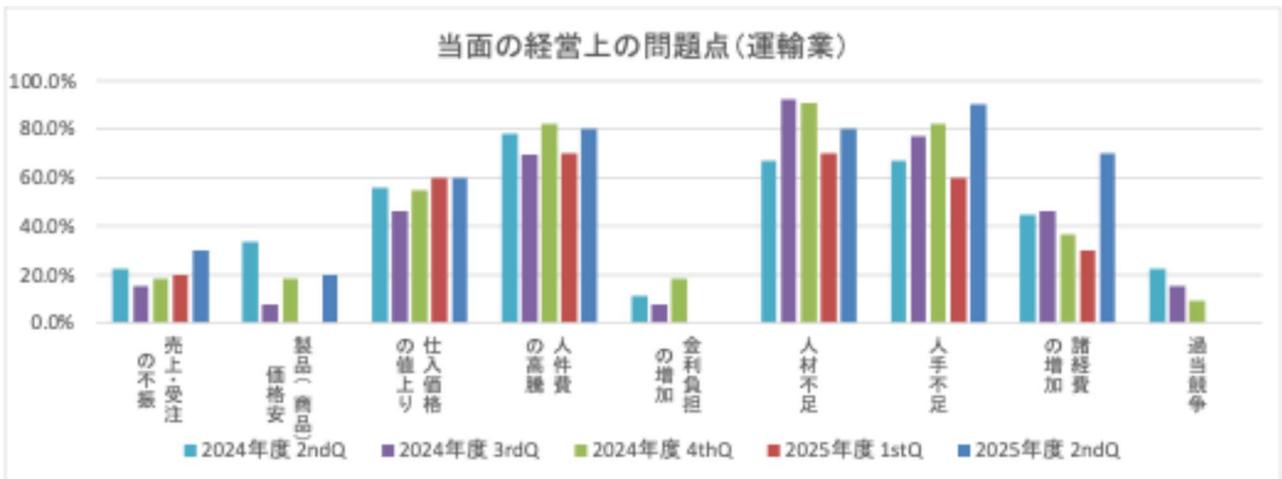
3. 運輸業



2025年度第2四半期の運輸倉庫業における景況は、前期と比較して総じて悪化した。

「業況」は▲2.3ポイント(前期▲7.0ポイント)とわずかに改善したものの、燃料費や労務費の上昇が収益を大きく圧迫し、収益状況は低下した。「原材料・仕入価格」は▲81.8ポイントと依然として高止まりし、燃料費などのコスト負担が収益を圧迫している。「資金繰り」は▲20.5ポイントと悪化し、運転資金面の懸念もみられる。一方、「借入金」は2.3ポイントと改善がみられた。

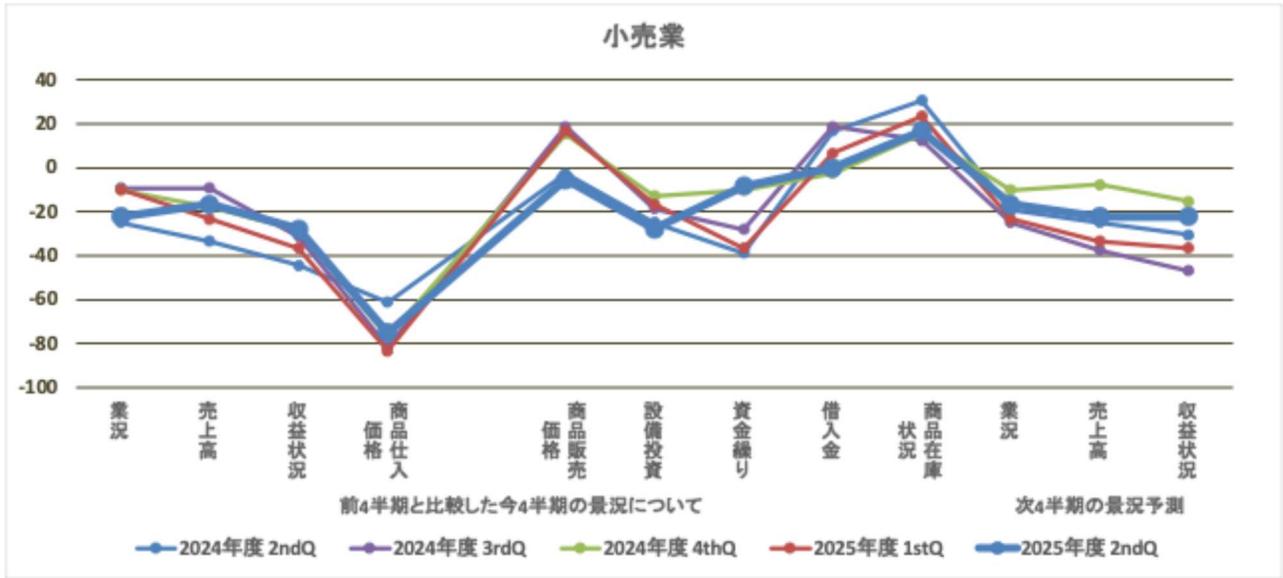
回答数により変動幅が大きくなっている点には留意が必要であるが、全体としてはコスト上昇と需要の伸び悩みが収益を押し下げる構図が続いている。



2025年度第2四半期の運輸倉庫業における経営上の問題点では、「人手不足」が前期から大幅に増加し、最も多く挙げられている。「人材不足」も増加しており、労働力確保の難しさが一段と強まっている。「人件費の高騰」は引き続き高水準で推移し、人件費上昇と人手不足が経営を圧迫している状況である。「仕入価格の値上り」は横ばいで推移しているが、「諸経費の増加」は大きく増えており、燃料費などのコスト負担が広がっている。一方、「売上・受注の不振」や「金利負担の増加」は低水準で推移している。

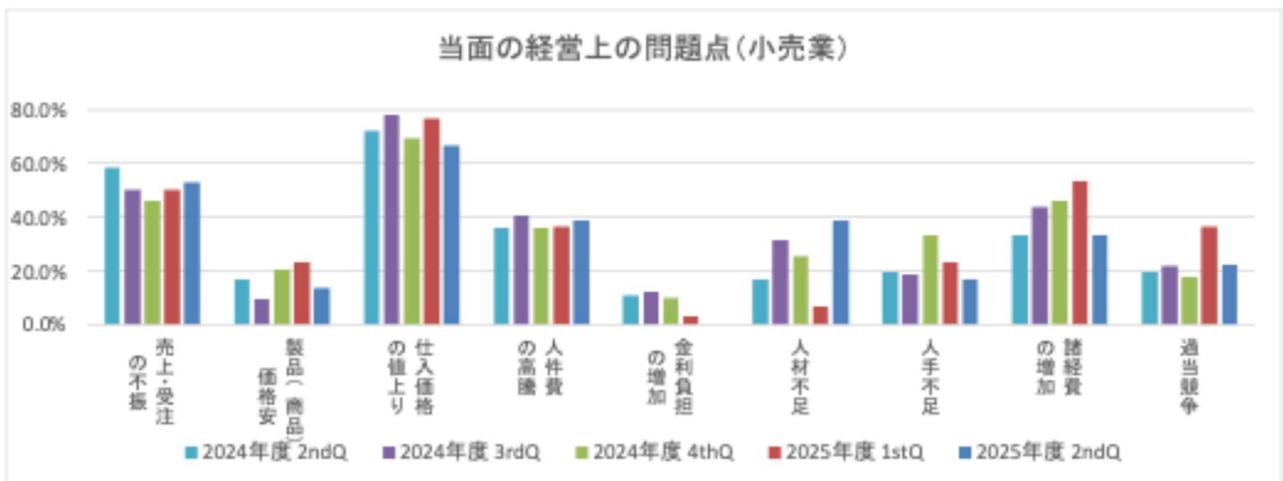
全体としては人材・コスト両面の圧迫が経営課題の中心となっている。

4. 小売業



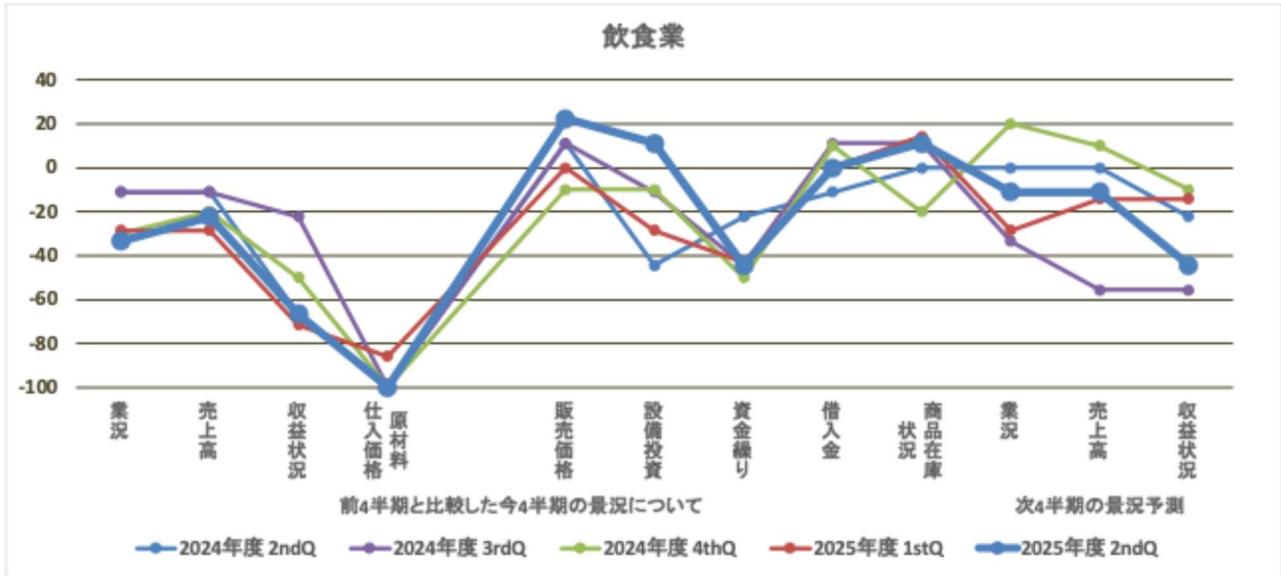
景況感に大きな変化は見られず、また相変わらず「商品仕入価格」は高騰が続いている。「商品販売価格」は増加が一服し価格転嫁ができていない感があるが、特に収益が悪化した様子もない。全体的に、落ち着いた展開と言えるのではないだろうか。先四半期に比較し「借入金」が減少している中、「資金繰り」が好転しているのは何故だろう。資金需要が少ない状態であったということか。ちょっと気になるところではあるが、次四半期の動向を見守りたい。

次四半期の予測は、期待感もなく悲観的でもない。通常の第3四半期は年末・冬物商戦で期待感が大きくなる時期であるが、その様子は見られない。猛暑の夏がなかなか終わらず、データに季節感が反映されていないのではないかとaitくもなるが実際はどうであろう。



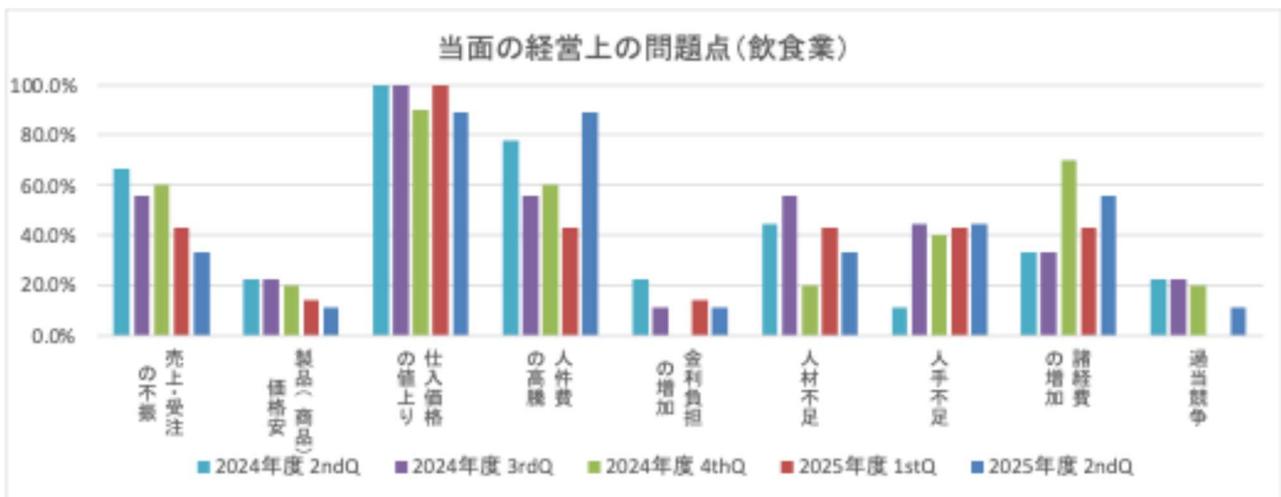
先四半期と大きな変化があったのは、「人材不足」が大きく伸びたことと、「諸経費の増加」・「過当競争」の項目が減少したことである。「人手不足」・「人件費の高騰」に大きな変化はなく、「人材不足」だけが増加したことになにか明確な要因を見出すことはできないが、事業拡張や事業転換などへの意欲や行動の関連であるなら、むしろ良い兆候かもしれない。「諸経費の増加」・「過当競争」の減少については、物価高が多少落ち着き、事業環境が改善したのなら良いことであるが、実際のところは次四半期以降の動向を見る必要がある。

5. 飲食業



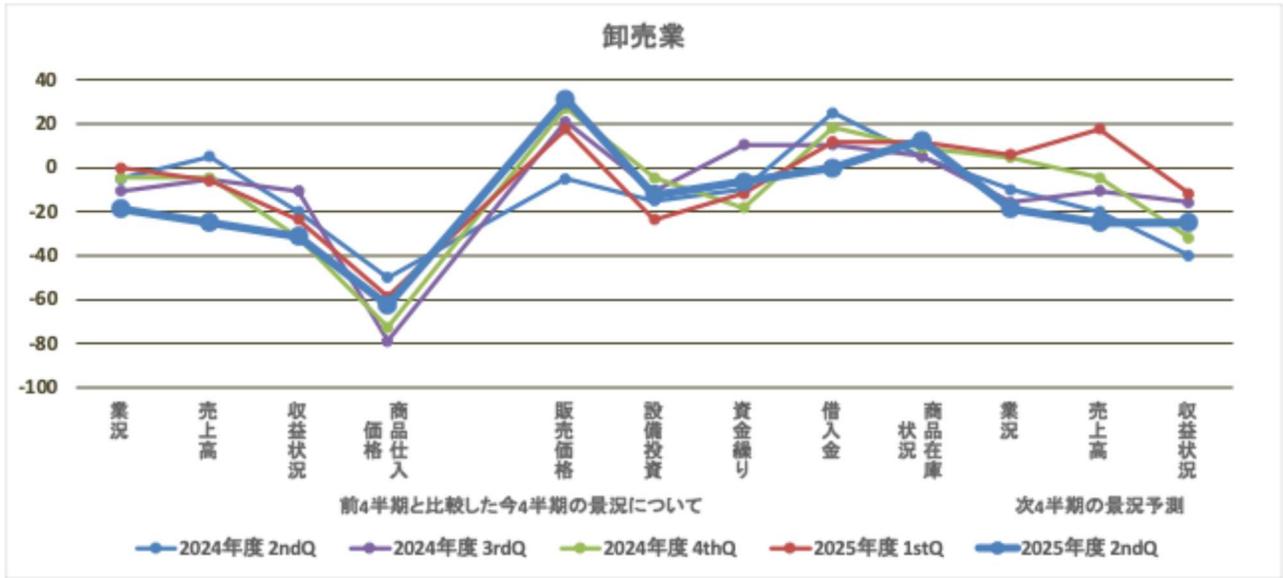
先四半期に大きく悪化した「収益状況」が、引き続き悪い。「販売価格」が増加したものの、「原材料・仕入価格」がさらに悪化したことで、収益状況に改善が見られないのであろう。「設備投資」も増加している。全体的な傾向であれば良い傾向であるが、たまたま特異な回答に引きずられただけかもしれない。どうであろうか。

次四半期の予測では、例年景況の良くなる第3四半期にしては、大きな期待は感じられない。特に「収益状況」に関しては大きな悪化を予測している。年末商戦に期待のできない状況が続くのであろうか。



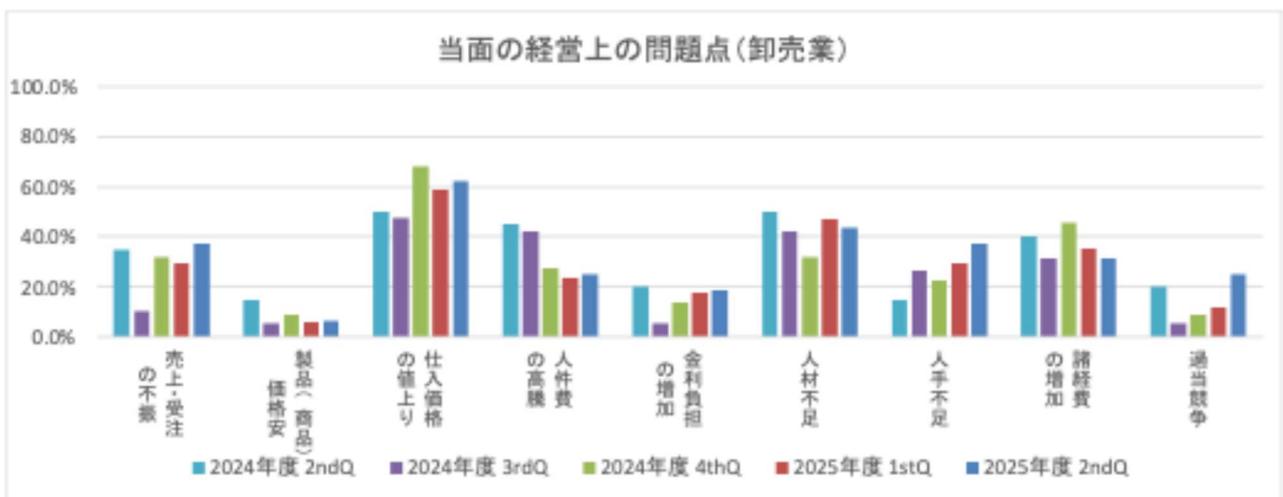
「売上・受注の不振」がほぼ一貫して減少状況にあり、売上は足りているが「仕入価格の値上り」・「人件費の高騰」・「諸経費の増加」のコストプッシュ要因と、「人材不足」「人手不足」の問題が経営を圧迫している状況がさらに強まっている。「製品(商品)価格安」は低位で安定しており、価格転嫁はある程度進んでいるようであるが、コストプッシュをカバーするほどではないということか。米をはじめとする食料品の値上げと人件費の高騰の影響を克服しきれない飲食業の実情を表している。

6. 卸売業



今四半期の卸売業は、「業況」「売上高」「収益状況」がいずれも前四半期から大幅に悪化した。また、「商品仕入価格」が依然として高水準にある一方、「販売価格」はプラス幅が拡大している。「設備投資」「資金繰り」は改善したが、「借入金」はゼロ付近にとどまっている。総じて、仕入価格の高止まりによるコスト圧力と、価格転嫁後も売上が追いつかない状況が業況悪化の主因であり、収益確保に苦慮している状況が示されている。

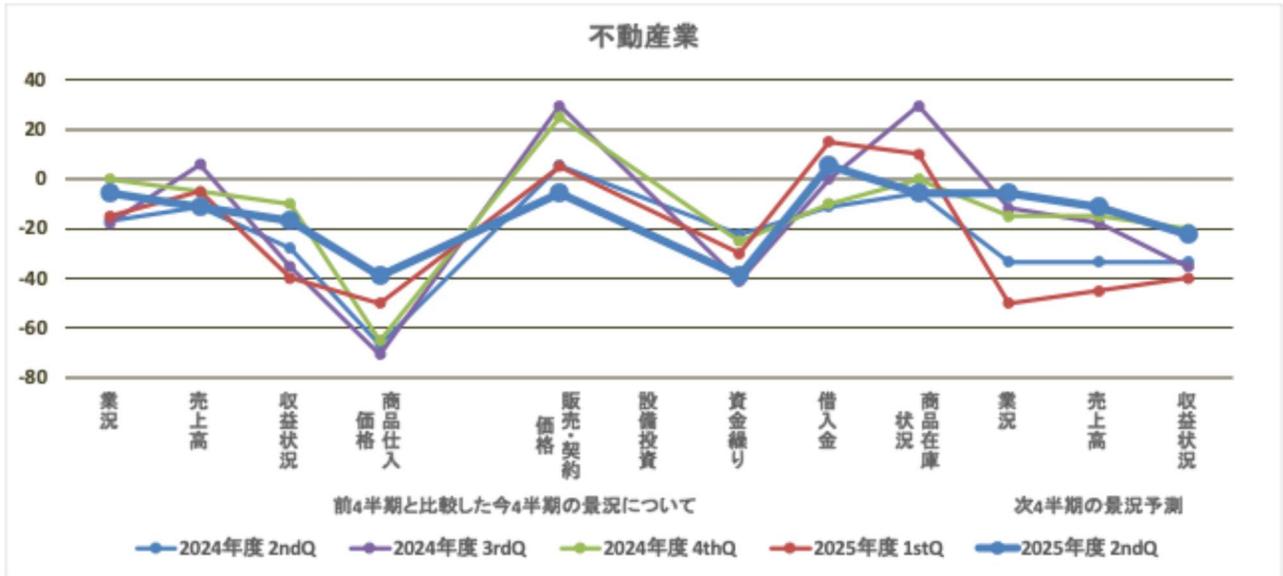
次四半期については、「業況」「売上」「収益」のいずれも大幅に悪化する見通しが示されている。前四半期まで続いた「売上高」回復の鈍化、「商品仕入価格」の高止まり、「収益状況」悪化の長期化が影響し、今後の需要や利益確保が見通せない状況にあると考えられる。価格転嫁の限界や市場需要の弱さから、慎重な見方がみられる。



今四半期の卸売業における問題点は、「売上・受注の不振」「人手不足」「過当競争」などが悪化し、市場環境の厳しさがみられる状況である。その他にも幅広い問題点が緩やかに悪化している。一方で、「仕入価格の値上り」や「人件費の高騰」「諸経費の増加」などは前四半期とほぼ同水準で推移しており、コスト負担が慢性的に続いている状況が示されている。「人材不足」「人手不足」も継続的な問題であり、採用や従業員確保に伴うコスト増が経営に影響している状況がみられる。

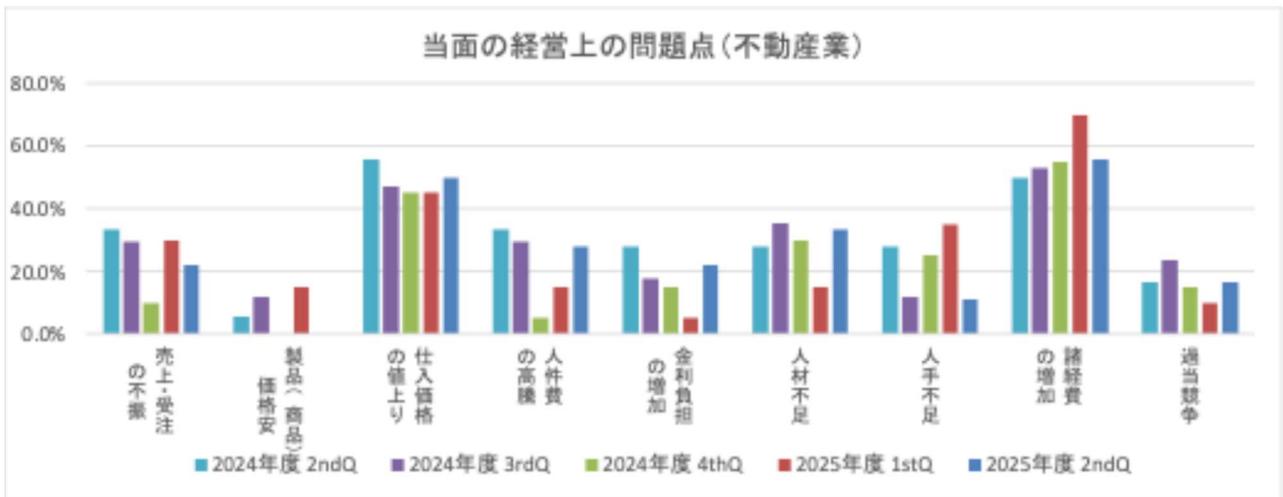
今四半期は市場需要の伸び悩みに加えて競争環境が厳しくなっている。「売上・受注の不振」の背景には地域内需要の停滞や価格競争の強まりがあり、過当競争が増加して利益確保の難しさが示されている。加えて、収益環境の悪化が長期化する中で販売価格を下げにくい状況が続き、コスト増との板挟みになっている。

7. 不動産業



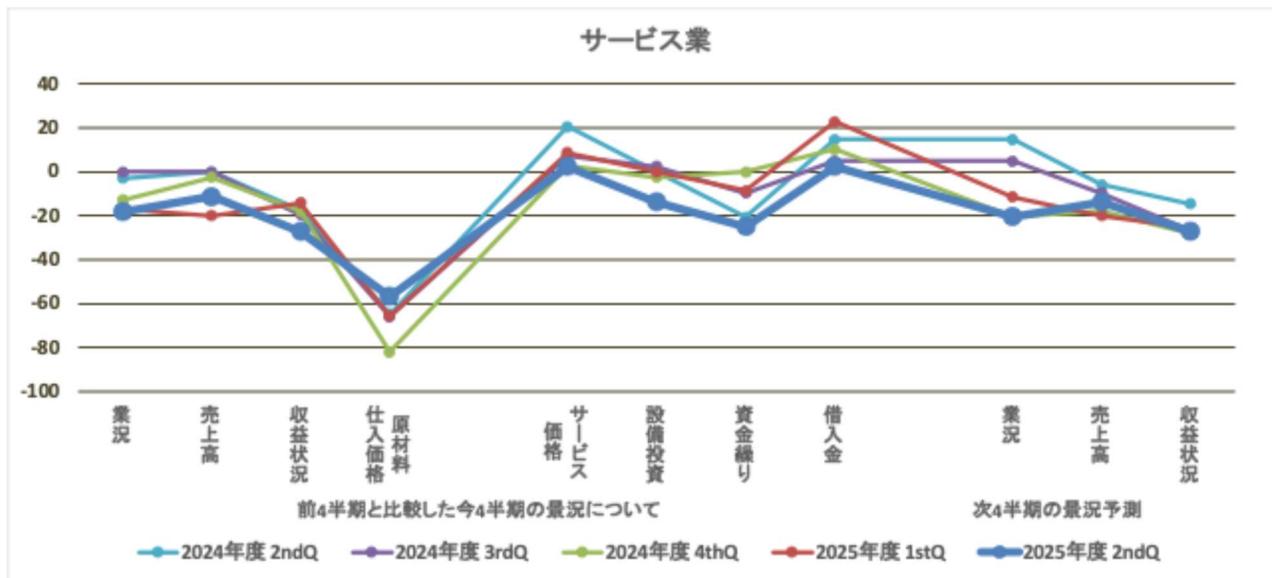
前四半期の景況に比べ、今四半期は「売上高」がやや下落したが、「景況」「収益状況」とも好転している。

「商品仕入価格」はひところの高騰状態から前期は▲50.0ポイント、今期は▲38.9ポイントと落ち着きを取り戻しつつある。しかし「販売・契約価格」は逆に前期に比べプラスからマイナスへ10.6ポイントの低下を示しており、今後の傾向に注視する必要がある。また「資金繰り」「借入金」および「商品在庫状況」が悪化傾向を示している。これらからは景気の後退を見ることができるが、前四半期の景況予測ではかなりの悪化を予測していたが、三項目とも次四半期予測では今期の景況と同様な好況予測となっている。

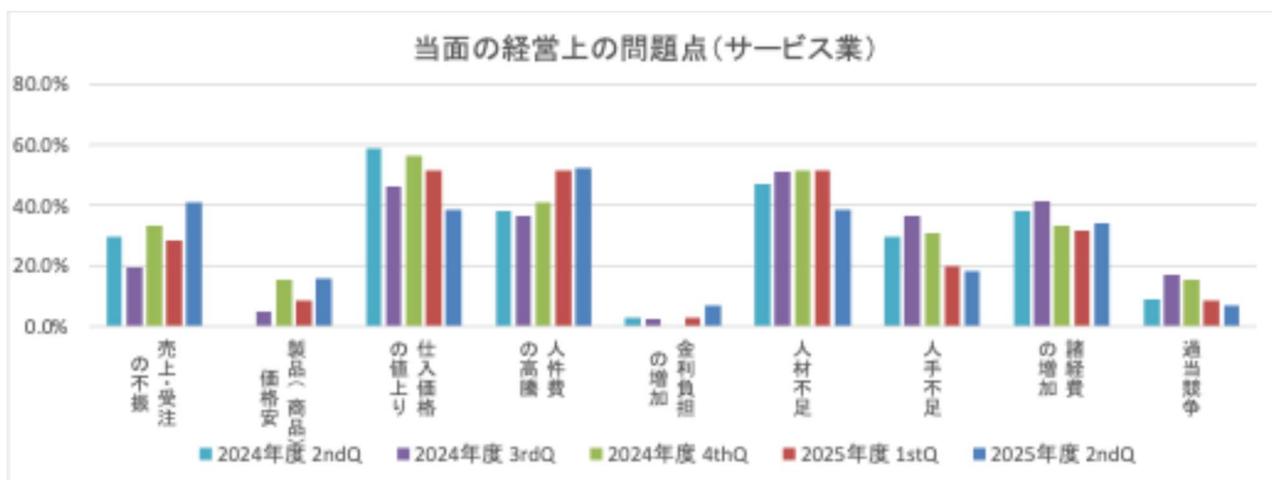


今期の経営上の問題点をみても、変化量を前回と比べてみると「製品(商品)価格安」は問題なしとなり、「人件費の高騰」が前回3件から5件に増加、「金利負担の増加」が前回1件から4件に増加、「人材不足」が3件から6件に増加、「人手不足」が7件から2件に減少となっている。「諸物価の増加」は前回との比較では減少しているが、過去の値から見ると変化が見られない。前回に比べ、人手より人材に不足感があり、そのために人件費が高騰していると言える。金利についても過去と同様なレベルと言え、問題点の状況は大きな変化を見ることができない。

8. サービス業



「原材料・仕入価格」については 2024 年第 4 四半期の▲82.1 ポイント(仕入価格の上昇)から二期連続で価格の下落傾向が見えている。「サービス価格」は前期と同様な値であるが「設備投資」が 13.6 ポイントほど低下し、「資金繰り」「借入金」も同様な悪化が見える。次四半期の景況予測は今四半期の景況とほぼ同様な予測となっているが、サービス業全体の景気はやや低下傾向にあると解釈できる。



サービス業では「人件費の高騰」が最も高い関心事となっている。また「売上・受注の不振」が上昇傾向にある。「仕入価格の値上り」「人材不足」「人手不足」は減少を示しており、「諸経費の増加」はさほどの変化は見えない。「人件費の高騰」が示している値と「人材不足」「人手不足」の減少との関係が不明である。その他、「製品(商品)価格安」「金利負担の増加」「過当競争」の 3 つについては依然として低くなっており、問題であるとの認識があまりないか、と思われる。